

かけはし

2024年(令和6年)12月

第38号

富山盲ろう者友の会 新聞

「かけはし」第38号

発行日:2024年12月1日

発行:富山盲ろう者友の会

〒930-0806 富山市木場町2-21

富山県聴覚障害者センター

TEL076-441-7331 FAX 076-441-7305

会長挨拶

九曜 弘次郎

これから本格的な冬を迎えますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日「サイトワールド」という展示会に行ってきました。「サイトワールド」は、視覚障害者に特化した総合イベントで、視覚障害者向け機器の展示や講演会などが行われています。毎年、東京都墨田区のJR錦糸町駅の近くにある「すみだ産業会館 サンライズホール」で開催されています。

ここに行った目的のひとつは、盲ろう者が使える体温計を開発してほしいという話を持っていくことでした。コロナで毎日、体温を測らなければならない日々が続いていましたが、盲ろう者に使える体温計がないことが課題になっていました。そのため、全国盲ろう者団体連絡協議会で、盲ろう者が使える体温計を開発してほしいと、いろいろなメーカーに働きかけを行っていました。しかし、体温計は医療機器なので、どこのメーカーでも開発できるものではありません。



そんなとき、サイトワールドの出展社の中に、医療機器メーカーで、音声で読み上げる体温計やパルスオキシメーターを展示している会社を見つけました。そのような会社ならば、盲ろう者向けに振動の数で体温が分かる体温計を開発してもらえるかもしれないと思い、その会社のブースに行きました。

案内文では「音声読み上げ機能付きの体温計やパルスオキシメーター」と書かれていたので、その体温計やパルスオキシメーター自体が音声で読み上げるのかと思っていました。しかし違っていました。体温計やパルスオキシメーターをスマホと接続して、スマホが音声で読み上げるというものだったのです。最近なんでもスマホなのだなあと改めて感じました。

写真:指にはめたパルスオキシメーターのデータがタブレットに表示されている。

サイトワールドの詳しいレポートについては、全国盲ろう者協会が発行している「コミュニカ」という雑誌の次号に原稿を書く予定ですので、そちらをご覧ください。他にも全国の盲ろう者の生活などが書かれていて参考になると思います。富山盲ろう者友の会の事務局にも送られています。

盲ろう者が使える信号機設置を目指して

九曜 弘次郎(全盲難聴)

多くの横断歩道には歩行者用信号機があります。赤は止まれ、青は渡ってもよいことを示してい

ます。当たり前のことのように、視覚障害者や盲ろう者にはこの信号の色が見えないため、今自

分が道路を横断してもいいのかどうか判断することができません。

視覚障害者にも信号の状態が判別できるよう、音響式信号機が設置されている交差点があります。「ピヨ・ピヨ」、「カッコー・カッコー」という音を聞いたことがあるでしょう。視覚障害者はこの音を頼りに、今信号を渡っていいかどうかを判断しています。

しかし、目と耳両方が不自由な盲ろう者には、信号の色を見ることも、音響式信号機の音を聞くこともできません。盲ろう者が信号の色を判別できる信号機はあるのでしょうか。

大阪などでは、「高齢者・視覚障害者・盲ろう者用LED付音響装置」が設置されています。これは、視覚障害者や高齢者など多くの方が安全に道路を横断できるように開発された、音響ポールを原型とした信号機補助装置です。地上に立てる「埋込型」のほかに、信号機に取り付ける「抱込型」があります。



写真上:埋込型 下:抱込型

いずれも、横断歩道の手前に設置され、地上1メートルの高さから光と音が出るように設計されています。次の3つの特徴があります。

▽見やすい光

横断歩道の向こうに設置された信号機を見上げるのに比べて、横断歩道の手前、高さ1メートルのLED光源は、弱視の人にも見やすくなっています。車椅子利用者、小さな子供にも見やすい高さです。

▽聞き取りやすい音

普通の音響信号は上のほうから音が聞こえるため、交差点で行きたい方向が青なのか赤なのか判断しづらい場合があります。これに対し、音が近くの低い位置から聞こえると、音を頼りに行きたい方向へ道路を横断することが可能になります。

また高い位置から音が出る通常の音響式信号機と比較して、音が周囲に拡散しにくいいため、24時間運用も可能になります。実は、近隣の住民への配慮から、通常の音響式信号機の多くは、夜間・早朝に音を止めています。東京では、音が鳴らない時間帯に赤信号を渡ってしまった視覚障害者が車にはねられ亡くなるという事故が起きています。

▽振動機能

これが盲ろう者にとって最も重要な機能で、信号が青になるとポールの頭がぶるぶると振動する機能を搭載しています。このことにより、盲ろう者は触って振動の有無で青信号を知ることができます。

設置のお願いを続けています

私がこの信号機のことを知ったのは10年ほど前で、神奈川県の方から紹介いただきました。そして富山県でもこの信号機を設置してもらえないかと、メーカーの方に来ていただいたり、県警に要望書を提出したりしています。

県警の反応は、担当者により大きく異なるというところですが、初めから設置は無理だという方、この信号補助装置の有用性を理解し、設置に向けて動いてくれる担当者もいました。一時期は数年後には設置するといってください方もいらっしゃいました。県議会議員さんにもお願いして要望を伝えてもらっていますが、なかなか実現しないのが現状です。

最近、地域によっては「信 GO!」というスマホのアプリを使って信号の情報を提供するシステムの設置が進められています。「高度化PICS」というしくみを使い、信号の情報をスマホで受信するものです。しかし、スマホの向け方によっては、渡り

たい方向と直角の方向の信号を認識してしまうこと、また振動はあるものの青になったときに一瞬振動するだけで、青から赤に変わるタイミングが分かりにくいこと、またそもそもスマホ自体使える盲ろう者がまだまだ少ないことなどが課題になっています。

道路の横断は命に係わる重大なことです。視覚障害者や盲ろう者は道路を横断する際、とても神経をすり減らし、時には危険な思いをしているのだということを多くの方に知っていただきたいと思っています。そして誰もが安心して安全に渡れる信号機の設置を願っております。

活動報告

ボランティア・NPO フェスティバル

西村 陽子



10月19日(土)、グランドプラザで、第36回ボランティア・NPO フェスティバルが開催され、友の会は体験ブースとして参加しました。

当日はあいにくの雨模様で肌寒い一日でしたが、家族連れや子供たちがブリスタを使っての点字打ちを体験し、自分で打ったブリスタのテープを葉に張り付けて嬉しそうに持ち帰って行きました。中には点字に興味を持っているという小学生が、短い文章を何個も打って喜んでいました。またスマホの画面に点字の6点を表示させて点字を打ち、音声で読み上げ同時に文字で表示するというアプリの説明を熱心に聞いていた方もいました。

お昼過ぎには九曜会長がステージで団体紹介のスピーチをしました。

ロービジョン相談会

吉田 明美

11月9日(土)、南砺市福野町「サンキューア・ミューホール」で「見えない・見えにくい人のための生活便利グッズ展示&相談会」が開催されました。

雲ひとつない秋晴れの空の元、来場者は約50名。当ブースには10名の来訪が有りました。今回もエンビジョングラスの装着試用に人気があり、皆さん熱心に九曜会長の説明を聞いて行かれました。

次回開催予定は、2025年3月、黒部市です。

さわる宇宙展体験

井筒屋 勝己



11月16日(土)、黒部市吉田科学館を訪ねました。始まったばかりの「さわる宇宙展」を体験するためです。ICTを活用する視覚障害者支援の研究者や富山県視覚障害者福祉セ

ンターなどの協力を得て企画されました。科学館の学芸員が、たっぷり1時間半、案内してくれました。



会場には、隕石の実物が展示され、実際にさわることできます。鉄隕石と呼ばれる隕石は鉄とニッケルが主成分です。地球の花崗岩と重さを比べてみたり、実際に隕石に磁石がくっつくかを確かめました。



太陽系の惑星の、大きさの違いや表面の凸凹の違いを、さわって

体験するコーナーもありました。また、惑星による重力の違いを体感するコーナーも。



同じ大きさのりんごに見立てた模型ですが、それぞれ重さが違います。惑星ごとに重力が異なるため、同じ質量のりんごでも惑星ごとに重さが違って感じます。それを実感するしかけです。



視覚に障害のある人もない人もともに楽しめる試み、ぜひ、広がってほしいものです。

会への支援、ありがとうございました

(敬称略、五十音順)

賛助会費：石川 真由美、中川 文男

(2024年8月～11月に入金いただいた方々です)

賛助会費振込先は

郵便振替口座 00700-8-68745

加入者名 富山盲ろう者友の会

※賛助会費は、個人一口 1,000 円、
団体一口 5,000 円です。

※申し訳ありませんが手数料をご負担下さい。